

施策体系

基本方針	3	教育の健幸	施策名	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成
------	---	-------	-----	----	---------------------

施策統括部	教育部	関係課	商工振興課
施策主管課	生涯学習課		

1 施策の評価指標

成果指標		単位
A	学校への郷土学習実施校数	校
B	指定文化財件数	件
C		
D		

2 指標等の推移

成果指標	R4年度実績値	数値区分	6年度	7年度	8年度	9年度	評価	背景として考えられること
A 校	8	目標値	9	10	11	12	○	基本的に、小学校3年生の社会科「昔の道具とくらし」の学習で行われることが多く、中学校との関りが少ないのが現状。今後は、学校と協議しながら、出前講座や展示物の貸し出しなどによる普及を検討していきたい。
		実績値	9					
B 件	25	目標値	25	25	26	27	○	未指定文化財の中で市指定文化財同等の価値を持つ文化財はあるものの新たな指定に至っていない。今後とも文化財保護委員と意見交換を行いながら進めます。
		実績値	25					
C		目標値						
		実績値						
D		目標値						
		実績値						

※【評価】 ○；目標達成 △；目標をほぼ達成（-5%） ×；目標を未達成

事務事業数・コスト		6年度	7年度	8年度	9年度
事務事業数		本数	5		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,102	
		都道府県支出金	千円	0	
		地方債	千円	0	
		繰入金	千円	0	
		その他	千円	120	
	一般財源	千円	11,898		
事業費計		千円	13,120		

3 施策の現状・住民意見等

①施策の現状(第1期基本計画策定当初)と今後の状況変化

- 歴史資料館の展示方法、来館者の増加促進など歴史資料館の充実が求められています。
- 収蔵物の保管場所が不足しています。
- 指定文化財の標柱、説明板等の老朽化による腐食や損傷が進み、分かりづらくなっています。
- 保存・継承を行なう団体の後継者問題等により、伝統的郷土芸能の存続が危ぶまれています。
- 所有者の高齢化や世代交代等により文化財への意識の希薄さが見られます。

②この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

(令和6年度(令和5年度振り返り)の施策評価における議会意見)

- 地域や学校と連携し、伝統芸能の後継者育成に取り組むこと。
- 資料館への来館数を増加する工夫につとめること。
- 伝統行事等の存続が危ぶまれている。継承に向けた支援が必要である。
- 合志市歴史資料館運営事業について、ふるさと探訪まちめぐりバスの実施、こども歴史・科学体験教室等、継続している事業もある。「合志市の地名～その由来と伝承」展は興味深く見学した。低予算であるが引き続きの研究を望む。

(令和6年度(令和5年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)

- 伝統文化や文化財を活用し、地域の活性化につなげること。
- ふるさとカルタやカタルパの樹(書籍)を活用し、郷土愛の醸成を図ること。

4 施策の評価

①施策の振り返り(経営方針の達成度等)

令和6年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。

①【市指定文化財の掘り起こしや歴史・伝統文化の新たな価値付けを行なうとともに、ふるさとカルタやデジタルアーカイブ、地域学校協働活動等の活用など更に関心を持たれるような情報発信と後継者育成に努めます。】については、神仏像調査を県内の学芸員に依頼し調査を行うことで、これまで分からなかった神像や仏像の種類・時期が判明し成果が上がりました。また、合志市ふるさとカルタを「台熊祭々in合志」において台湾語訳30セットを景品として配布したほか、英語版を主催講座「日本語講座」等で活用しました。歴史資料館事業として、「ふるさと探訪まちめぐりバス」の開催を7回実施し、180名が参加しました。

②【歴史資料館においては特別展の充実を図るとともに、図書館やマンガミュージアムと連携し3館の魅力向上に努めます。】については、特別展「半導体と熊本の未来」展(見学者1464名)や企画展「平和の祈り～戦時中の暮らし～」展を開催しました。また、「子ども歴史科学体験教室」全9回(参加者680名)を実施することができ学習等の機会の提供に努めました。図書館では、図書館講座において「竹迫城の歴史」を学芸員が解説しました。その他、電子図書の郷土資料として民話「合志の昔話」等を掲載することが決定しました。

③【人材不足等により活動が難しくなっている伝統行事について、状況を把握し支援に努めます。】については、竹迫観音祭(市指定文化財)の備品購入に対し、民間の補助金事務の窓口となり、申請支援を行いました。また、高千穂神楽については、コロナや後継者不足により現在活動ができていないため、過去の祭り映像記録をデジタル保存し、今後祭りが再開できる支援を行いました。県から依頼のあった祭・行事調査において調査員(文化財保護委員1名)が調査を行い、これまでに知られていなかった詳細な状況など新たな発見があるなど成果が上がりました。

④【開発の増加が予想されるため、埋蔵文化財調査体制の強化に取り組めます。】については文化財収蔵庫の環境整備や新規の作業員を雇用しました。

②施策の課題（令和6年度の施策の振り返りから見る課題）

- 歴史資料館を中心とした文化財を活用するための仕組み作りが必要です。
- 収蔵物の保管先の確保及び土器などを洗浄・接合するための整理作業室の設置が必要です。
- 文化財資料のデジタル化など環境整備を行い、市民にわかりやすい情報発信が必要です。
- 活動団体が主体的かつ持続可能な活動支援が必要です。
- 文化財保護委員をはじめ、文化財の活用を担う人材の育成が必要です。

5 施策の令和6年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（施策目標達成度評価結果報告を受けて令和7年7月23日）

- 合志市歴史資料館の利用促進のため、市民に分かりやすい情報発信、施設利活用について工夫し取り組むこと。
- 指定文化財及び伝統郷土芸能の継承のため、地域や関係団体等と協力して、後継者等の人材育成の支援を行うこと。
- 郷土愛の醸成に向けて、特に若者に合志市の歴史、文化に興味を持ってもらえるよう、ふるさとカルタやマンガコンテンツ等を活用した取り組みを進めること
- 図書館やマンガミュージアムと連携し、歴史資料館の更なる魅力向上に努めること。

②総合政策審議会での指摘事項（令和7年7月31日、8月6日のまとめ）

- 伝統文化や歴史等を継承していくための仕組みづくりを行うこと。
- 学校等と連携した郷土愛の醸成に向けた取り組みを行うこと。

③議会の行政評価における指摘事項（令和7年9月1日）

- 歴史資料館については、年間計画を基に各学校やイベントへ出張展示を行うなど、利用促進の機会を創出すること。
- 合志市の魅力を市外にも発信するために、歴史資料館をより充実させること。
- 小中学校に郷土芸能部などを設置し、伝統芸能の後継者育成に取り組むこと。

6 次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部 令和8年度合志市経営方針（令和7年10月10日）

- ①歴史資料館の更なる魅力の向上を図るため、特別展等の充実を図るとともに、図書館やマンガミュージアムとの連携を強化し、市内外への情報発信に努めます。
- ② 伝統郷土芸能等の継承のため、地域学校協働活動の活用など、地域と連携した仕組みづくりを行い、後継者育成に努めます。
- ③ 特に若い世代に本市の歴史・文化に興味を持ってもらえるよう、ふるさとカルタを活用したイベントなどの充実努めます。
- ④ 郷土愛の醸成に向け、学校の総合学習や社会見学授業など、学校と連携した歴史資料館の活用促進に努めます。